

議 事 録

会議名称	第2回小松市未来型図書館基本構想策定委員会
日 時	令和4年8月30日(火) 13時30分～16時30分
場 所	こまつ芸術劇場うらら第2・第3会議室
出席者	(敬称略・順不同) 小松市長 宮橋 勝栄 小松市教育委員会教育長 石黒 和彦 小松市未来型図書館基本構想策定委員会委員8名 座 長 平賀 研也 副座長 西村 聡 委 員 金子 哲也 委 員 久保 由味子 委 員 道券 悠一 委 員 中村 知恵 委 員 山元 加津子 委 員 尾木沢 響子 事務局（生涯学習課未来型図書館づくり推進チーム、小松市立図書館） 横山、坂下、千葉、吉田、界、中山、梶谷、加藤 支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社（以下「a r g」）） 李、有尾
欠 席 者	なし
次 第	1. 議事 （1）未来型図書館の基本コンセプト設定にあたっての機能のあり方について （2）今後のスケジュールについて （3）その他
配布資料	【資料1】第1回未来型図書館つながるミーティングについて 【資料2】公立小松大学「地域ブランディング論」研究成果発表について 【資料3－1】多面的機能（複合機能）について 【資料3－2】未来型図書館の機能のあり方について 【資料4】今後のスケジュールについて 【資料5】第3回未来型図書館を考える講演会チラシ
傍 聴 者	2名

<会議内容は下記のとおり>

挨拶（宮橋市長）

8月4日の豪雨災害では、多くのみなさまからお見舞いの言葉、励ましの言葉をいただいた。委員のみなさまの中にもボランティアセンターの運営や被災地でのボランティア活動に参加いただいている方もいらっしゃる。被災からの再建にご支援いただいているみなさまに感謝を申し上げたい。市としては、一日も早い復旧、また被災者の生活の再建、事業の再建等にしっかりと取り組んでいきたいと思っている。引き続きご支援をお願いしたい。

このような災害を経験し、未来型図書館においても新たな視点で検討していく必要があると考えている。単に防災機能の強化というだけでなく、市民のみなさんにとってのコミュニティの場、様々な出会いの場であるということが、新しい小松をつくっていく上で非常に大切なことと考えている。こうした未来を見据えた取り組みをみなさまと一緒にできることは非常にありがたいと思っており、本日も様々なかたちで議論を深めていきたい。

先月は公立小松大学の学生のみなさんからも、授業の一環として未来型図書館づくりについて様々な意見をいただいた。また、第1回つながるミーティングでも、これまでなかなか定義がなかった「未来型図書館」について、言語化されてきたのではないかと感じている。市民のみなさんがさらに共感していただけるように言語化をしていくことや、そのプロセスが、今後の構想策定に向けて非常に大切ではないかと思っている。本日もこの「共に創る」プロセスをしっかりと大切にしていって議論を深めていきたい。

1. 議事

（1）未来型図書館の基本コンセプト設定にあたっての機能のあり方について

資料1に基づき、a r gより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

山元委員	第1回に参加し、活発な意見だったことが嬉しかった。出会いによってつながりを強くしていきたいという思いを感じた。
平賀座長	その場をきちんとファシリテートしていける市民の方がたくさんいたことに感銘を受けた。また、交流や創造などなんとなく語っていたことが、より具体的な言葉として出てきて良かった。
中村委員	みなさんの「小松の将来について、もっとよくしていきたい」という思いを近くで感じられて良いミーティングだったと感じた。
久保委員	みなさんの関心の高さに驚いた。またご自分なりの確固とした考えがあることを感じた。気になった点としては若い方にももう少し参加いただけると良いと思った。
金子委員	たくさんの方のみなさんのアイデア、意見を聞かせていただき刺激になった。このようなことを考えることによってわくわくする未来がつくっていけると思うと非常に楽しみのになった。
道券委員	自分なりに未来型図書館に対して考えがあったが、このつながるミーティング第1回に参加させていただき、世代や人によっていろいろな考えがあると感

	じた。すべての考えを実現させるのは難しいところでもあると思うが、第2回・第3回も通して小松だからできる要素を取り入れて進めていければすごく良いものになるのではないかと感じた。
平賀座長	小松市には多様な施設があり、とてもうやましい環境にあると言える。しかし、これらの施設と新しい未来型図書館は別のものとしてではなく、一緒に考えていくことが大切であり、小松市においてどのような役割を持って存在するのかを考える必要がある。また、拾いきれていない多様なニーズをどう捉えていくのかについても議論していけたらと考えている。

資料2に基づき、事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

宮橋市長	学生が、一生懸命調べて考えている姿勢を感じた。また、学生ならではの視点に加え、幅広い世代の視点も取り入れ、深く考えられていたことが非常に良かったと思う。
山元委員	みなさんが非常に夢を持ちながら勉強されて、いろいろな図書館についても調べて自分なりに考えをもって発表されていることに感銘を受けた。 あまり小松市民の学生はおらず地元に戻る学生が多いとのことだったが、未来型図書館ができることでもっと小松市に住みたい気持ちになる方が増えていくと良いと感じた。
平賀座長	1ヶ月という短期間で全国の図書館に起こっていることをよく調べている。非常に良い視点のアイデアも多くあり、この場でもしっかり議論していかななくてはならない視点でもあると思う。 この学生のみなさんたちを何らかのかたちでぜひこの事業に巻き込んでいけると良い。

資料3－1に基づき、事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

平賀座長	ここまでしっかりと全国の動向を含めて調べた調査研究報告書はあまりない。ぜひみなさんにも改めて振り返っていただけたらと思う。 このなかでもアンケート調査においては、この未来型図書館において拾い上げていかななくてはならない視点も多く出ている。 この委員会としては、この調査研究報告書に対して一つの方向性を与えていくことが重要になる。この中で特に、「多面的機能（複合機能）の調査」において記載された内容から、未来型図書館はこうした多面的機能（複合機能）を持った施設として検討していったらどうかという示唆であると読み取れる。この委員会では、いわゆる本の館としての図書館ではなく、こうした相乗効果の期待される複合施設、もしくは融合施設として検討していくという方向性でよろしいか。
------	--

委員一同	意義なし。
------	-------

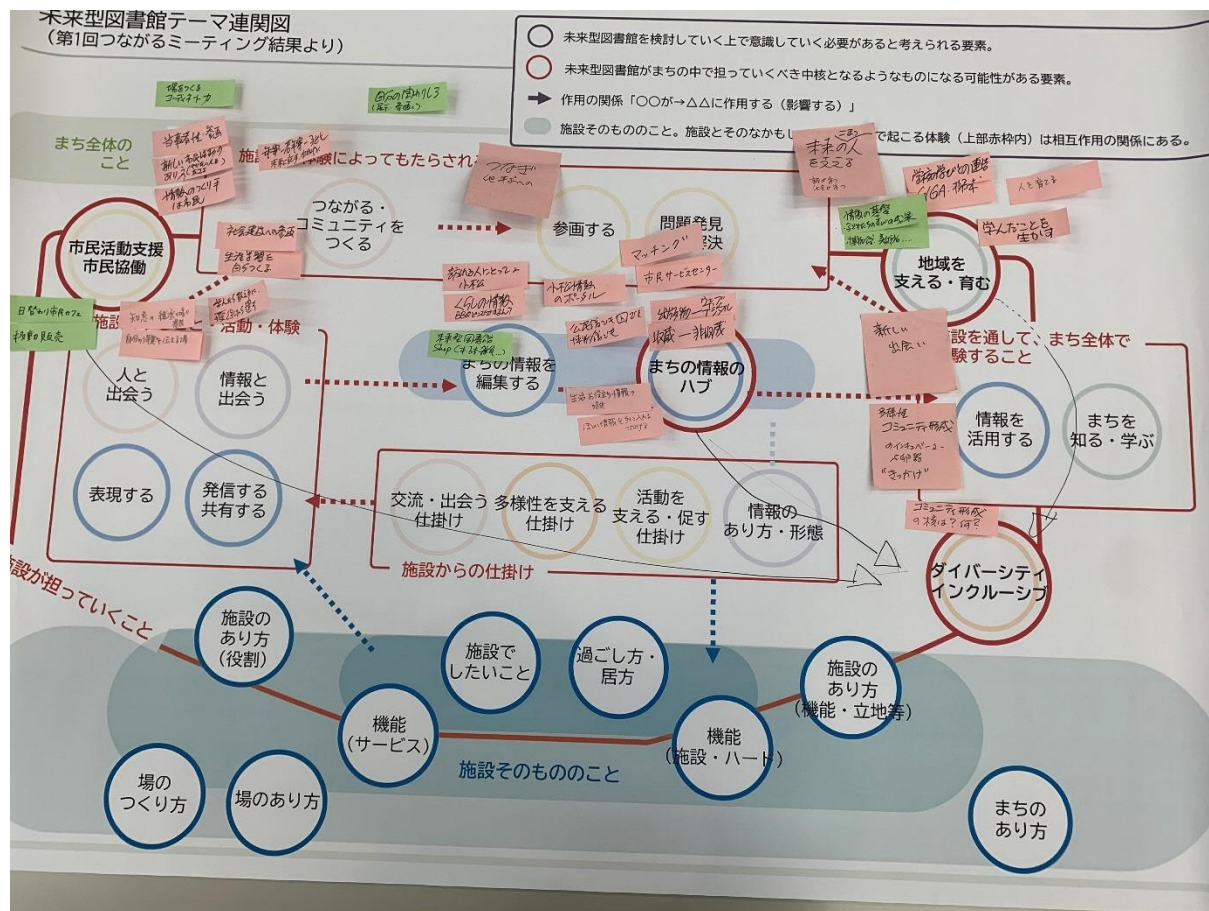
資料３－２に基づき、a r gより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

平賀座長	みなさんの前にある図で、赤丸で示すのは基本構想の一番上にあるビジョン、目指す姿を言語化していくために役立つ議論かと思う。下部の緑の部分は、そのためにどのような多面的な機能を持つのかという議論につながっていくことになるかと思う。 現状の抽象化した言葉ではまだ一般的すぎる。ここから小松だからこそという視点から言葉に落としていく必要がある。
山元委員	この議論をする前に、小松市のまちづくりの中で抱えている課題、古くなってきている公共施設（美術館・博物館など）をどうするのかという確認もしておかなくてはならないのではないかな。 また、小松市にある古いアーケードがあるエリアと図書館が絡められるのか、その他の施設やバスのアクセスなど、まちの抱えている課題を意識しながら検討した方が良い。
平賀座長	多機能の施設を検討するにしても、新しい施設に重複する機能なのか、そうではないのか。もしくは既存の機能を精査して必要なかどうか、別の施設と合わせることで新たな効果を生み出せるのか。公共施設マネジメントの視点からも、小松市のみなさんの暮らしと重ねて議論することで、ご指摘の課題が洗い出されてくるのではないかと考えている。 次回のつながるミーティングのまち歩きもそういった観点の手がかりを見つけていけるものであると思う。

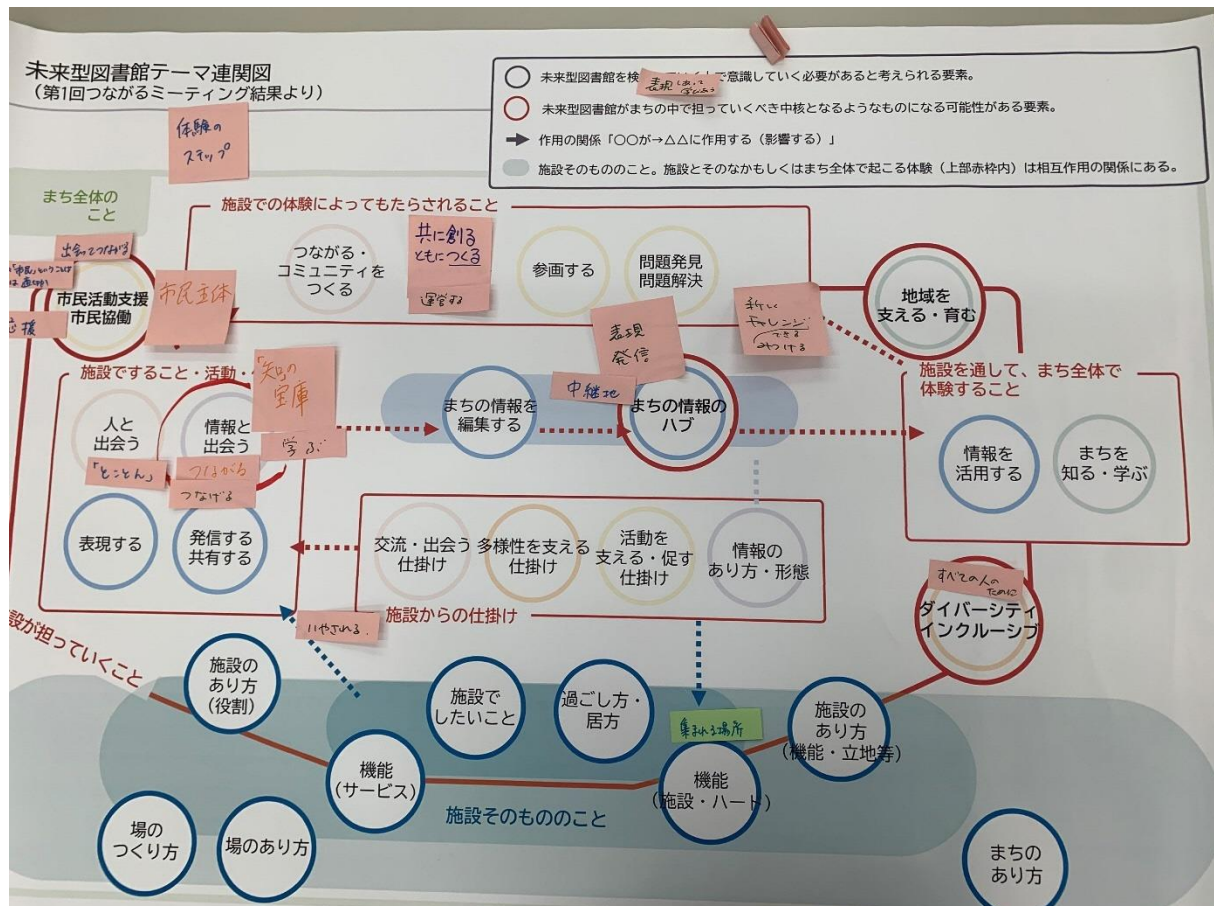
資料３－２の「未来型図書館テーマ連関図」をもとに３グループに分かれて、議論。

【グループ議論結果】（メンバー：平賀座長、金子委員、中村委員、梶谷館長、坂下（事務局）、界（事務局））



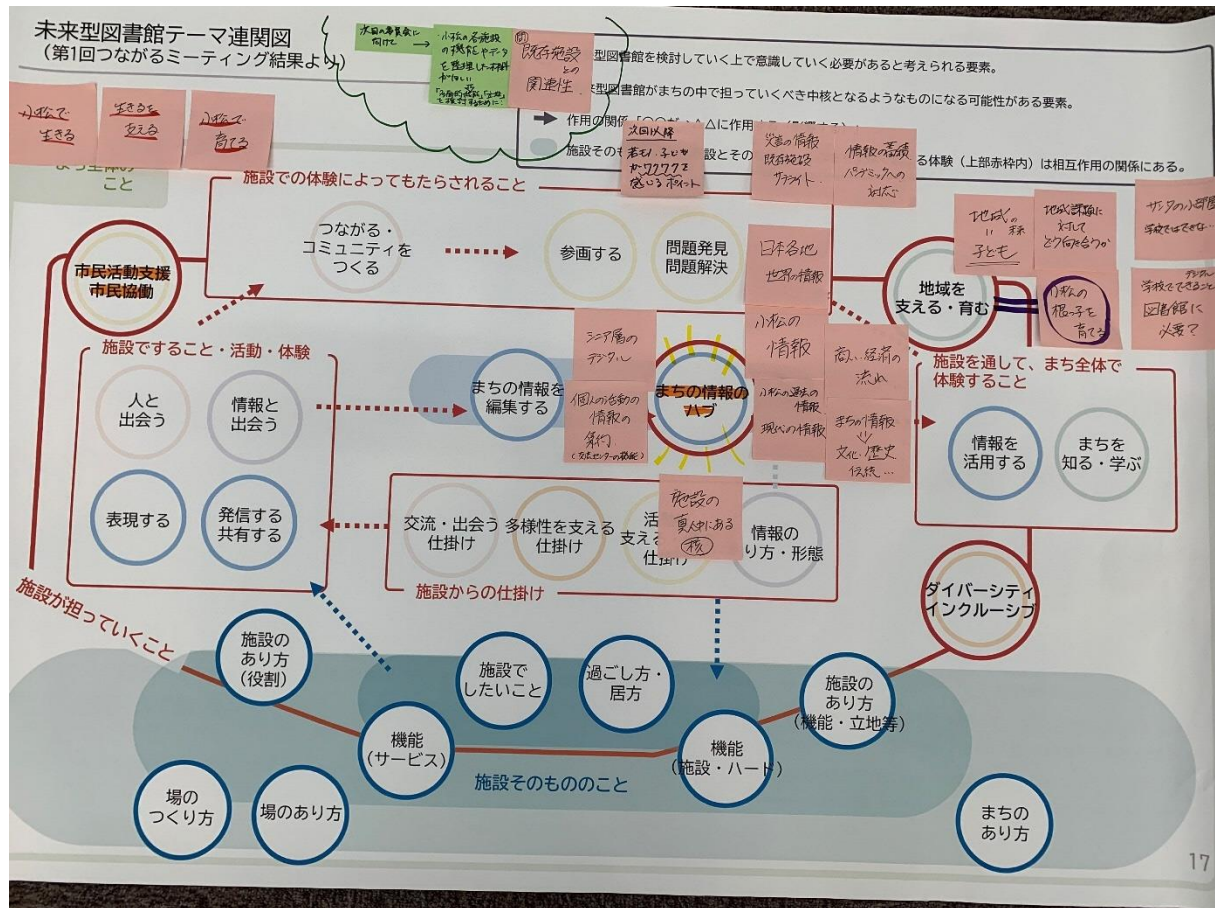
平賀座長	例えば、「まちの情報のハブ」といったときに、その「情報」とは何なのか。今までの図書館であればそこに収蔵されている資料を提供することが図書館の役割だったが、ウェブでもまちの他の施設が持っている情報を集約して提供していけること、図書館の外にいてもその情報を手にできる機会をつくることもこれからの情報のハブともいえるのではないかな。 やりたいことがある人と、他の人がつながることで学びの連鎖が生まれること、学校の学びなど多様な学びを支えていくハブとなったらいいのではないかな、という話が出ている。 多様な人が参画、チャレンジできる場所として、みんながやりたいことをコーディネートしていくことが大切なのではないかという話が出てきているところである。
------	---

【グループ議論結果】（メンバー：久保委員、山元委員、横山（事務局）、千葉（事務局）、加藤（事務局）、有尾（arg））



山元委員	「市民活動支援」という言葉だとイメージが付きにくいのが、市民がしたいこと、市民の活動の応援ということが伝わるとよいと思った。「ダイバーシティ・インクルージブ」もよりわかりやすい言葉になるとよい。 また、ここに来ると癒されて、気持ちがいよ場所になるとよいというやわらかなところから、この場所が新しいチャレンジになる、多様な人が発信し学んでいく施設であると良いという話が出ている。
事務局 横山教育次長	ここには図書館の機能が抜けているのではないかという意見も出たが、未来型図書館を考えるにあたって「図書館」の枠を外して考えてみようということ掘り下げて議論を行った。 それぞれに違う考えを持っているので、一つにまとめることは難しいが、想いを共有することができたのではないかと思います。

【グループ議論結果】（メンバー：西村委員、道券委員、尾木沢委員、吉田（事務局）、中山（事務局）、李（arg））



arg 李	「ダイバーシティ・インクルーシブ」は、より全体を包む広い概念ではないかというところから始まった。いま挙がっている4つの概念は同じレベルではなく、その見直しをするようなところから議論が進んでいった。 最初に「まちの情報のハブ」の「情報」には小松の情報だけでなく、日本や世界各地の情報も必要になる、そこから情報とは何かを考えていくことになりそうである。 「ダイバーシティ・インクルーシブ」は全体を包み込む概念として、「小松で生きる・生きるを支える」という意味合いのことが同レベル（最上位）のビジョンとしてあるべきではないか。その場合に「地域を支える・育む」は少し意味合いが違うものになりそうである。「小松の根っこを育てよう」というような小松ならではの言葉で表現していけるといいのではないかと話をしていった。
尾木沢委員	「ダイバーシティ・インクルーシブ」や「小松で生きる・生きるを支える」を前提として、その下の「情報のハブ」の話をした。過去の災害がどのようなあったのか、そうした知識を全国の人たちと共有できるようなシステムができたらいのではないかと話になった。 課題としては、子どもたちがわくわくするにはどうすればよいかという点がある。こうした点においても今後考えていきたい。

【グループ議論結果を受けて】

a r g 有尾	多くのみなさんの想いをまとめるのは非常に難しい作業になる。今後考察・議論を重ね、みなさんと一緒に考え、つくってきたという実感が持てるものにしていきたい。
-------------	--

(2) 今後のスケジュールについて

資料4に基づき、今後のスケジュールについてa r gより説明。

(3) その他

【資料5】に基づき、第3回未来型図書館を考える講演会について、事務局より説明。

次回、第3回策定委員会は10月25日（火）13時30分より公会堂にて開催予定。

以上